

2013年頭にあたり

2013



正栄食品工業株式会社
代表取締役社長 本多 市郎

新年明けましておめでとうございます。

平成25年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

弊社は昨年10月末をもちまして第65期を無事終了し、同11月より新年度入りを果たしました。これもひとえにお取引先様各位のお引き立てによるものと心より御礼申し上げます。

昨年海外では、長期化した欧州の債務危機が、欧州を輸出先とする新興国、特に中国経済に影響を与え実質経済成長が7%台に減速する等世界の需要縮小が見られました。一方国内では、復興特需もあり上期はコンビニエンス各社で最高益の更新が相次ぎましたが、夏以降は大量出店による競争の激化のほか消費税増税などの心理的な影響もあり、底堅いと思われた消費に停滞感が見受けられました。また食品業界では食の安心・安全への関心が一層高まり、消費者の低価格志向は依然強く、一方輸入農産物価格は新興国の需要増から高騰する等業界を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。

そのような中、今年も状況の変化に機敏に対応し、皆様のお役に立てる営業政策を進めてまいります。

昨年弊社はカリフォルニアでのクルミ事業で、殻付クルミで2万トン以上の生産を目指し、パッキング生産ラインの新設及び倉庫の新築等で従来の2倍以上の能力にアップされた工事がほぼ完了しました。殻付クルミの一部は延吉秀愛に出荷し、現地にて脱殻、選別をして日本に輸入する予定です。

中国事業では、上海秀愛食品を中心に上海・深圳・北京・香港・瀋陽・天津・ウルムチの営業拠点に加え、成都にも出店し、今後は海外の輸入品の販売だけでなく、中国の自社工場の生産品や仕入商品の販売を行なう予定です。また青島秀愛食品で昨年2月と7月に日本の著名な講師によるベーカリーセミナーと洋菓子セミナーを開催し好評を頂きました。

国内でも5月に大阪で弊社の商品展示会を開催し、大勢の方に来場いただき大変盛況の展示会となりました。

一方国内原料関係の工場の京まろんでは、需要の増加に対応した製造ラインの効率化や品質向上を目指し、新設備の導入を行ない一歩先を見据えた工場への転換を計っております。

菓子関係の工場では近年の設備導入によるチョコレート、ビスケットの新製品の効果も現れ、またナッツの健康効果ブームからナッツ小袋商品の販売が大変好調な動きとなり、生産ラインの増設に取り組んでおります。

いずれにしても、食品会社として、美味しい商品の開発にこだわり、お客様へ夢と美味しさをお届けできる企業を目指し、皆様に安心・安全なおいしい食材をリーズナブルな価格で提供させていただく事を最優先の課題として経営に当たる所存でございます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と事業のご発展を祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。